

京大のクラスから

いよいよ
本格的に



大学から原発再稼働阻止の行動を！

京大生のみなさん！ この間、語学クラスにおける討論で、原発再稼働阻止、経営協議会委員・藤洋作（元関電社長）追放の決議の採択投票がおこなわれ、両項目とも「可決保留」（保留が多いので可決ではないが、賛成票が多いという結果）となり、議論が継続しているクラスが続出しています。ついに京大キャンパスから、学生が具体的に「原発反対！」の声を上げ、行動に移して行く段階が始まりました！

3月11日の大震災と原発事故以来、本当に多くの人がこの社会を根本から問い直し、変革するための行動に立ち上がってきました。それは実際に全原発54基中、実に44基を停止させ、再稼働を阻止する力となっています。

これに対し、野田政権や経団連など原発を推進することで得をする人たちは、必死に「再稼働」に向けた巻き返しを始め「事故は収束に向かっている」とキャンペーンしています。

こうした再稼働への策動の中で、最大の焦点になっているのが大学です。「放射能はニコニコしてたら寄ってこない」と言い放った山下俊一氏（福島県立医大副学長）のような原発推進の御用学者が、再び「原発安全」「放射能は大したことない」の扇動を展開しています。福島の人々の「政府・東電の責任で避難させろ」の声を押しつぶすために、効果の上

全学連



全日本学生自治会総連合(斎藤委員長)

mail: kgakuren@yahoo.co.jp

http://zengakurenkantou.blog.shinobi.jp/

「京大は原発推進やめろ！」 第一回全学交渉 11月8日に決定！

11月8日、原発政策に対する京都大学の姿勢を問う交渉をおこないます。役員会からは赤松副学長が出席します。参加制限無し。みなさんふるってご参加ください。会場などの詳細は続報にて。

がらないことがすでに証明されている「除染」が大々的に持ち上げられています。黒を白と言いくるめなければ維持されない「原子力村」の腐敗が、再稼働策動の中で決定的に浮かび上がってきています。

しかし、この御用学者たちの言動は、あくまで原発推進の政治主張であり、まともな批判に耐えられるモノではありません。学生が真実を問い、怒りの声を上げるならば、覆すことはできます。

反原発のクラス決議を徹底的に拡大し、その意思を示す反原発・全学ストライキを実現しましょう！

学生が、自らのキャンパスから行動に起つこと、それはエジプト革命やウォール街占拠にも引けをとらない、全世界を揺さぶる一大社会問題となり、原発再稼働を阻止する決定的な力です。その行動を通して、社会から切り離され、国家や資本の手先に墮落した大学を変革し、学生の手に取り戻すための組織＝学生自治会を建設しましょう！

（そのための作戦会議をやっています↓参加者大募集中！）

大学奪還学生行動

大学と未来を取り戻すために会議を行っています。

日時：毎週水曜日 18時30分より

場所：吉田食堂西プレハブ

福島からのアピール

子どもたちを放射能から守れ
許すな原発再稼働
11・6は日比谷野音へ

全国のたたかう労働者の団結で、
ただちに原発を止めよう！

9月19日、明治公園は「原発を今すぐなくせ！」という
思いで集まった6万人もの人々であふれました。福島県内
からは、1千人の隊列となつてひとつに合流し、全体の先
頭に立ちました。子どもたちを放射能から守る福島ネット
ワークの用意した『怒』のノボリ旗の下、初めてデモに参

加したたくさんの母親、父親たち。全県から170名の結集を実現した福島県教組。「子どもの命を守れ」という、いて
もたってもいられない思いが、これまでの労働組合や政党の枠組みを越えて、一人一人の深い深い怒りをあらわした6万
人という大きな力となったのです。

野田新政権は、このフクシマの怒りに恐怖し、「事故の収束」と『復興』を必死にキャンペーンし、あくまで原発再稼
働を狙っています。9月30日には、「事故の収束」と「安全」を装うために、福島原発から20*₀~30*₀圏の緊急時避難準
備区域の解除だけが行われました。

私たちは、こうした動きに危機感をもち、9・19の6万人の力をさらに大きく拡大していく立場から、11月6日に日比
谷野外音楽堂で開催される『反原発・反失業 11・6 全国労働者総決起集会』への、結集をよびかけるものです。

それは、全国の労働組合が団結して政府と闘えば、原発は止められるし、放射能汚染から子どもたちを守ることも、労働
者、農漁民、市民の生活を守ることもできるからです。

常磐線の広野駅までの運転再開と放射能に汚染された車両の検修を拒否して、地元いわき市に支部があるJRの労働組合・
動労水戸がストライキに決起しました。労働組合が、労働者の命、地域住民の命を守るためにストライキで闘っています。
動労千葉は、ストライキで職場の外注化を阻止しています。それは大資本優先、労働者切り捨ての社会を労働組合の力で
変革する闘いです。

3月11日の震災以降、被災地でも団結して生きることの大切さを本当に痛感しています。農林漁業者も、市民も学生も
一緒になって、再稼働阻止！ すべての原発をいまずぐ止めよう！ すべての原発を廃炉にしよう！ と共に闘いましょ
う。現在の「労働運動不在」とも言えるような状況や、失業と膨大な非正規職化は、1987年の国鉄（現JR）分割・民
営化から始まっています。『新自由主義』といわれる政策のもと、解雇撤回を闘う労働組合が弾圧され、地方や農業が切
り捨てられるとともに、非正規労働者による被曝労働抜きには一日も成り立たない原発が大量に増設されていったのもこ
の頃からです。3・11の大震災と福島第一原発事故は、こうした社会のあり方が間違いであったことを誰の目にも明らか
にしました。「社会を変えなくてはならない。そのためには労働組合が変わらなくてはならない」。9・19に集まった多
くの労働者の思いです。今がそのチャンスです。自分たちの行動で未来を選択するために、あらゆる立場の違いを越えて、
広く広く闘いをつなげましょう！

清野和彦（福島県教組元執行委員長）、橋本光一（国労郡山工場支部書記長）、佐藤幸子（子どもたちを放射能から守る
福島ネットワーク世話人）、中手聖一（子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク）、鈴木光一郎（酪農家）、市川
潤子（ふくしま合同労組委員長）、渡辺馨（福島県労働組合交流センター代表）

反原発・反失業・国際連帯



反原発・反失業
怒りを力に 11・6日比谷へ
反原発・反失業の
国際統一行動を
国鉄1047名解雇撤回！
非正規職撤廃！
新自由主義と闘う
労働組合の全国ネットワークを

11・6全国労働者総決起集会
11月6日（日）東京・日比谷野外音楽堂
＜呼びかけ団体＞
●全日建運輸連帯労組関西地区生コン支部
●全国金属機械労組港合同
●国鉄千葉動力車労働組合
●国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤
回闘争を支援する全国運動

11・6日比谷へ！